



斑尾高原に「ハーブミュージアム」をつくった元ホンダマン

世界に雄飛するビジネスマンの心の琴線を揺るがした音色

シニアライフアドバイザー
松本すみ子



(株)アリア代表取締役、NPO法人シニアわーくす Ryoma21 理事長。シニアライフアドバイザー、産業カウンセラー、キャリアコンサルタント。早稲田大学第一文学部卒業。2000年に団塊/シニア世代の動向研究とライフスタイル提案、市場コンサルティングを行うアリアを設立。講演・執筆など多数。日経ラジオで土曜日21:30より「松本すみ子のルート60's」を放送中。著書に「地域デビュー指南〜再び輝く団塊シニア〜」(東京法令出版)、そうだったのが団塊マーケット」(経済法令研究会)など。

北信州に位置する斑尾高原は今年、スキー伝来100周年にあたるという。スキーのメッカといふべきこの地に、世界のハーブを展示する「紫音ハーブミュージアム」がある。立ち上げたのは、ハーブの音色に魅せられ、30年以上かけて収集・研究を行っている坂田一彦さん(67歳)。かつては、勤務先だったホンダが世界に飛躍しようとするとき、先陣を切って飛び



坂田一彦さん

出していくったビジネスマンだった。多忙な仕事の合間をぬって親しんだハーブの魅力、そして、定年退職後のハーブミュージアムにける思いをうかがってみた。

パラグアイでハーブの虜に

坂田さんは東京外国語大学でスペイン語を専攻。卒業後に入社したホンダで初めて出張した先が、進出を計画の中南米だった。ある日、パラグアイでの取引先とのディナーの席で、流れてきたのはアルパの演奏。スペイン語ではハーブのことをアルパという。演奏を聴いて坂田さんは衝撃を受けた。「きらびやかな玉をころがすような音に、これぞ、私が探していた音楽だと思ったのです」。早速、アルパを1台購入。LPレコードもたくさん買った。

ただ、このときはまだハーブ収集のことは考えてもいない。坂田さんは、カナダ、スペイン、ブラジル、イギリス、フランスの5か国に22年間も、の駐在生活を送る。その間も、ハーブへの関心は途切れることなく、1991年から96年のブラジル赴任時代には、パラグアイのアルパの巨匠に師事し、演奏を習いはじめた。仕事の合間に習う時間をつくるのは大変だった。「毎週金曜日の夕方に消えるんです。そして、8時くらいにまた現れる。お前、どこに行っていたのかと聞かれるんですが、いっさい内緒にしています。言ったら、何をやっているんだ、仕事もしないでと言われてしまいますから」。坂田さんがいた時代のブラジルは、年率2500%のインフレで、アマゾンの奥地につくった会社は



自然に囲まれたミュージアムの入り口で

存続の危機。毎日の会議の大半がインフレ対策だった。社員の首は切らないというのがホンダの方針だったが、本社とやりあって、大量に解雇するようなこともあったという。しかし、ブラジルの経済はダイナミックで、短期間で結果が出た。リストラ後3年か4年で